
元帥と私

たいすん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

元帥と私

【Nコード】

N3567H

【作者名】

たいすん

【あらすじ】

主人公のクラウドス・バーク少尉は上官であるリリカ・グリーデン元帥からのセクハラ発言に突っ込みを入れつつも国を守るため日夜働いていた。しかし、平和だったマイレーン王国に戦乱の兆しが見えはじめていた

序章

「君は姉萌えか？それとも妹萌えか？」

「は？」

「だから、君は妹と姉のどちらに萌えるのかと聞いているんだ」

「何ですか急に。そんなことより仕事をしてください、仕事を。」

「何を言っているんだ、クラウス君。部下の性癖を把握するのは上司として必要なことだぞ。それに、君が夜な夜な私のことをどんな風に想像し、無茶苦茶にしているかとても興味がある。さあ、君のそのどす黒く淫らな妄想を私に教えてくれ！」

「アホかあああ！」

ここはマイレーン王国元帥府。王国軍を司る重要な施設であり、国防の中枢である。外観は誰もが息を呑むような荘厳な建物であり来るものを威圧するような迫力があるが、しかし逆に内部はいたって簡素な造りになっており初めて訪れたものは外と内との差の激しさに驚くものが多い。この元帥府内にある執政室に一人の女性がいる。椅子に寝そべり、足を机の上に投げ出し、お世辞にも行儀が良いとはいえない姿勢で意味不明なことを言う、この人こそ王国唯一の元帥であるリリカ・グリーンデン將軍でありクラウス・バーグ少尉はその側近である。

「まったく、たまにはまじめに仕事をしてください。いくらわが国が平和だからと言って將軍がそんな様子だと兵士の指揮に関わります」

「なに、軍人なんてものは暇なほうが良いんだよ。私は戦争なんかより、君のその服の上から見えるお尻のラインを眺めているほうがよほど楽しいし興奮するよ」

「馬鹿なことを言わないでください。それにそれは男性が女性に言うようなものであって、この場合將軍は言われる側でしょう？」

「なんと！クラウド君は私の肢体に興奮してくれるのかね！これは良い、さあ私の胸に飛び込んでくるんだ」

「だれが飛び込むかつ！」

「尻でもいいぞ？」

「黙れよ！」

彼女リリカ・グリーデンは性格に難があるものの、容姿は非常に優れている。整った顔立ち、スラリとした長身に、腰まで伸びた艶やかな黒髪、細身でありながら鍛えられたその体は女神の彫刻のようであり、服からはちきれんばかりの胸がより彼女の女性としての魅力を際立たせている。このように男性なら誰もが目を奪われるような美貌をもっているが、評判はあまりよくない。なぜならこの国は平和だからだ。

マイレーン王国は現国王ヨセフ3世の代になってから政策を一転、他国との関わりを最小限にし消極的な外交政策を行っていた。自国の内政を重視するといえは聞こえは良いが、要は他国との問題に極力関わらないようにしているだけであり、また肝心の内政も増税や民に重い労役を課すといった政策がとられ、民の間では国王は暗君であると、まことしやかにささやかれている。また、他国から余計な警戒をされないよう、軍を大幅に縮小。名だたる將軍をほとんど免職していき、残ったのはすでに第一線から身を引いていた老将と実戦経験の無い若い将校達だけとなっていた。そして、軍の最高指揮官には、若く実績も無いしかも女性であるリリカ・グリーデン將軍をお飾りとして任命した。結果、民のみならず軍内にもリリカ・グリーデンを非難する声が多く、余計な摩擦を生み、そのことでクラウドス・バーク少尉の仕事が増えることになっているのである。

「それにしても將軍」

「私のことはお姉さまと呼べ」

「うるせえよ！」

「何？さては妹派か？」

「だからうるせえって！」

「クラウドスおにいちゃん」

「キモいからやめろ！」

「なんだクラウドス君、上官に向かってその口の聞き方は無いだろう」

「あんたが変なこと言うからだ！」

「変なとは聞き捨てならんな。昔は私のことをリリカお姉ちゃんと呼んで、あんなに懐いていたじゃないか……。そうか、時の流れとは残酷なものだな」

「あんたと知り合ったのは去年が初めだ！適当なこと言うな！」

「で、何の話だクラウドスおにいちゃん」

「だからっ！ああ、もういいですよ。この国の今の状況のことです。將軍は不安じゃないんですか？今の軍備じゃ他国に攻められると一たまりもありませんよ？」

「最高指揮官がド変態だしな」

「自分で言わないでください！將軍は危機感つてものが無いんですか？いまでこそ周りの国とは大きな揉め事はないですけど、いつ状況が変わるかわからないんです！不意をつかれてわが国が襲われるかもしれないんですよ」

「私は君を襲いたいぞ！」

「何の話だ！」

「上に乗るのが好みだが？」

「聞いてねえよ！」

「まあ、マジ話はさておき」

「冗談にしてください！」

「私は現状で満足してるよ。他国と戦もなければ争いもない。民衆の間では不評のようだが、陛下はよくやっておられると思う。軍を縮小するのも国内産業を発展させるという意味では間違っていない。労役も道路の整備や運河の治水など後々民に恩恵が返ってくるものだ。増税で得た資金もそれに使っているようだし。陛下が名君かどうかは私には判断できないが、少なくとも陛下なりに民のことを考えてやっていることだとおもうよ」

「それは、確かにそうですね……」

「もし何かあったときはその時考えれば良いことだよ。起こってもいないことで悩むことほど愚かなことはない」

「そういうもの、でしょうか」

「そういうものだよ」

「……それでも、やはり、私は將軍ほど冷静にはなれそうにありません。しかし、將軍も大事なところはちゃんと見ているのですね。

いつもボーっとしているだけだと思っていました。見直しましたよ」

「フン、当たり前だろう、私は元帥なのだから。だからクラウス君、今晚私の寢室の鍵は開けておくからいつでもきてくれていいぞ？」

「もうあんたしゃべんなよ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3567h/>

元帥と私

2010年10月14日15時10分発行